

衛研第1-53号
平成27年 3月11日

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493-59-9325
FAX 0493-59-9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成 27 年 第 10 週（平成 27 年 3 月 2 日～平成 27 年 3 月 8 日）

今週の注目される疾患

全数把握対象疾患では、一類、二類（結核を除く）感染症の届出はなかった。三類感染症は、細菌性赤痢 1 人の届出があった。四類感染症の届出はなかった。五類感染症は、アメーバ赤痢 1 人、急性脳炎 2 人、侵襲性肺炎球菌感染症 3 人、麻しん 1 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**(3.67 3.36)の定点当たり報告数は前週より減少したが、前年までの同時期と比べ報告数の多い状況が続いている。保健所別では、加須(0.80 2.00)保健所管内で大きく増加し、朝霞(5.69)、川越市(4.63)、鴻巣(4.42)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、4～8 歳で全体の 67.4%を占めている。**伝染性紅斑**(0.67 0.80)の定点当たり報告数は前週より増加した。保健所別では、川口(0.67 1.13)保健所管内で大きく増加し、春日部(1.69)、加須(1.20)保健所管内からの報告が多い。**流行性耳下腺炎**(0.35 0.52)の定点当たり報告数は前週より増加した。保健所別では、幸手(0.33 1.56)保健所管内で大きく増加し、加須(2.00)、朝霞(0.85)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、3～6 歳で全体の 67.5%を占めている。**インフルエンザ**(4.64 3.38)の定点当たり報告数は減少傾向にあるが、いまだ全保健所から報告があり、今しばらくは注意が必要である。保健所別では、本庄(5.00)、草加(4.88)保健所からの報告が多い。**感染性胃腸炎**(9.30 9.16)の定点当たり報告数は前週と同水準に留まった。保健所別では、川口(14.93)、東松山(14.40)、川越市(13.50)保健所管内からの報告が多い。眼科定点報告対象疾患では、**急性出血性結膜炎** 1 人(前週 1 人)、**流行性角結膜炎** 12 人(前週 13 人)の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、**無菌性髄膜炎** 1 人、**マイコプラズマ肺炎** 6 人、**インフルエンザ(入院)** 3 人の報告があった。**感染性胃腸炎(ロタウイルス)**は基幹定点 6 カ所から 8 人の報告があり、前週(3 カ所から 5 人)より増加した。

< 全数把握対象疾患の患者情報 >

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし（結核を除く）	
三類感染症	細菌性赤痢	1人（病原体 <i>S. sonnei</i> ）
四類感染症	報告なし	
五類感染症	アメーバ赤痢	1人（病型 腸管アメーバ症）
	急性脳炎	2人（病原体 インフルエンザウイルス 1人、不明 1人）
	侵襲性肺炎球菌感染症	3人
	麻しん	1人（病型 臨床診断例）

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。

衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613

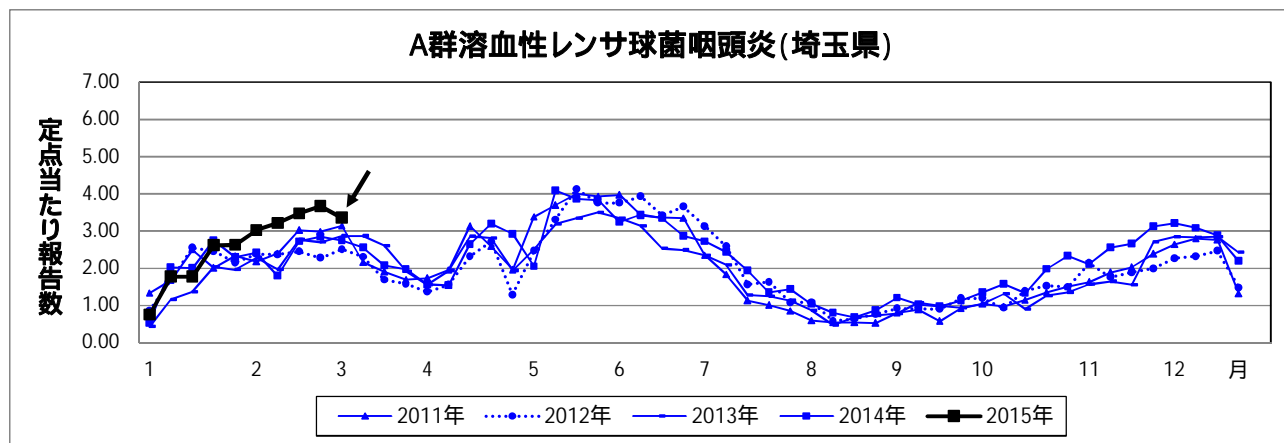
e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ (URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>) で御覧になれます。

注目すべき疾患

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 -

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は518人の報告があった。定点あたり報告数(3.36)は前週より減少したものの前年同時期(第9~11週平均2.71)より多く、今しばらくは注意が必要である。

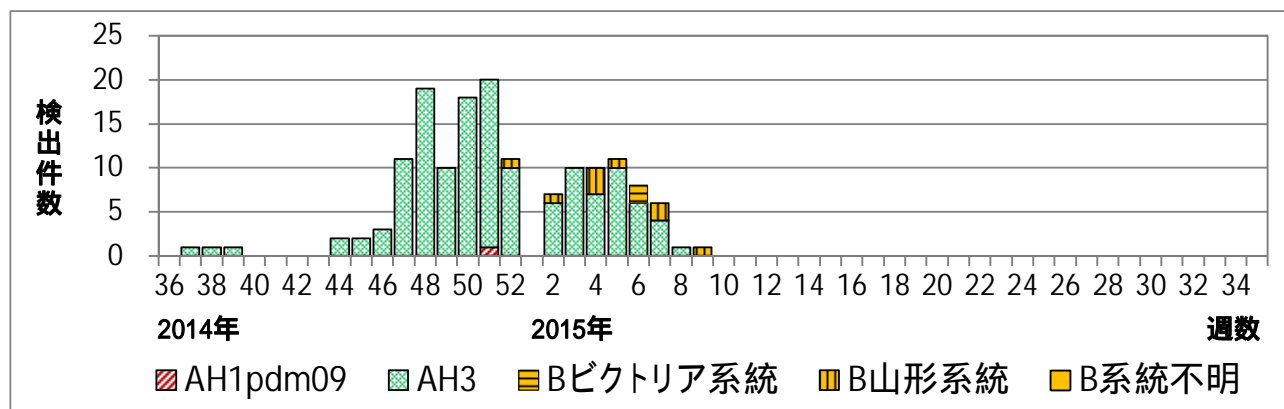


- インフルエンザウイルス検出状況 -

前週以降第10週までに、鴻巣、狭山(各1人)保健所管内で採取された計2検体から、新たにAH3(A香港)1件、B型1件が検出された。9月(第36週)以降の検出は、AH3(A香港)が141件と最も多く、AH1pdm09が1件、B型が11件の計153件となった。B型は、山形系統9件、ビクトリア系統2件が前年末以降検出されている。

2014年36週から		年齢階級								計
		0~9	10~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
AH1pdm09	今週検出分									-
	累積	1	-	-	-	-	-	-	-	1
AH3(A香港)	今週検出分							1		1
	累積	68	39	4	7	8	4	6	5	141
B型	今週検出分		1							1
	累積	3	3	2	2	1	-	-	-	11

週別インフルエンザウイルス検出状況



感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第10週)

(2015年 3月 10日 15:00集計)

	今週 届出	累 計	2014年 累計		今週 届出	累 計	2014年 累計
一類感染症							
エボラ出血熱				ペスト			
クリミア・コンゴ出血熱				マールブルグ病			
痘そう				ラッサ熱			
南米出血熱							
二類感染症							
急性灰白髄炎				中東呼吸器症候群(MERS)			
結核*	-	-	1,390	鳥インフルエンザ(H5N1)			
ジフテリア				鳥インフルエンザ(H7N9)			
重症急性呼吸器症候群(SARS)							
三類感染症							
コレラ				腸チフス			2
細菌性赤痢	1	1	2	パラチフス		1	1
腸管出血性大腸菌感染症		6	265				
四類感染症							
E型肝炎		1	12	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)			
ウエストナイル熱				ニパウイルス感染症			
A型肝炎		3	8	日本紅斑熱			
エキノコックス症				日本脳炎			
黄熱				ハンタウイルス肺症候群			
オウム病		1		Bウイルス病			
オムスク出血熱				鼻疽			
回帰熱				ブルセラ症			1
キャサヌル森林病				ベネズエラウマ脳炎			
Q熱				ヘンドラウイルス感染症			
狂犬病				発しんチフス			
コクシジオイデス症				ボツリヌス症			
サル痘				マラリア			3
重症熱性血小板減少症候群				野兔病			
腎症候性出血熱				ライム病			1
西部ウマ脳炎				リッサウイルス感染症			
ダニ媒介脳炎				リフトバレー熱			
炭疽				類鼻疽			
チクングニア熱				レジオネラ症		11	55
つつが虫病			1	レプトスピラ症			
デング熱		1	14	ロッキー山紅斑熱			
東部ウマ脳炎							
五類感染症							
アメーバ赤痢	1	9	41	侵襲性肺炎球菌感染症	3	21	75
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)			11	水痘*		1	3
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		3	3	先天性風しん症候群			
急性脳炎	2	10	27	梅毒		9	51
クリプトスポリジウム症			1	播種性クリプトコックス症		1	4
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	6	破傷風			5
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		3	10	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
後天性免疫不全症候群		2	45	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1	6
ジアルジア症		1	1	風しん		2	9
侵襲性インフルエンザ菌感染症		5	10	麻しん	1	4	27
侵襲性髄膜炎菌感染症			2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		1	2
指定感染症	該当疾患は無し						

水痘* : 患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計				

累計は診断日で集計
* 2014年累計は暫定値です。
* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第10週 平成27年3月2日～平成27年3月8日)

	合計																				
	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳～	
インフルエンザ #1	829	-	7	39	34	34	59	45	66	45	49	36	147	23	28	62	58	28	37	15	17
合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳～	
RSウイルス感染症	33	9	8	10	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	48	1	2	11	3	8	9	4	4	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	518	-	1	11	17	33	65	88	90	54	52	29	59	1	18	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	1,411	8	48	160	152	139	138	150	114	87	52	47	140	20	156	-	-	-	-	-	-
水痘	112	-	4	8	5	9	17	17	18	14	7	4	7	-	2	-	-	-	-	-	-
手足口病	22	-	2	4	1	2	6	1	2	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	123	-	1	1	6	10	18	25	16	17	11	8	10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	82	-	28	48	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	80	-	-	-	7	10	17	13	14	5	5	3	5	-	1	-	-	-	-	-	-
合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳～	
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	12	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	2	1	2	1	1	2	-	-	1
合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳～					
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	1	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	8	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	3	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報 第 8 週

(2月16日～2月22日)

平成27年3月11日

インフルエンザの定点当たり報告数は第5週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は福井県(19.69)、高知県(17.21)、沖縄県(14.53)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は399例と前週と比較して減少した。都道府県別では46都道府県から報告があり、年齢別では0歳(20例)、1～9歳(69例)、10代(8例)、20代(4例)、30代(14例)、40代(10例)、50代(13例)、60代(39例)、70代(65例)、80歳以上(157例)であった。

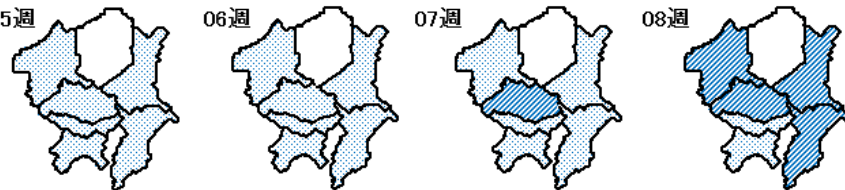
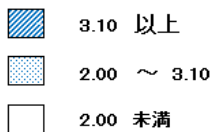
RSウイルス感染症の報告数は1,420例と第5週以降減少が続いている。年齢別では1歳以下の報告数が全体の73%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は富山県(1.10)、新潟県(0.82)、鹿児島県(0.80)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は鳥取県(7.16)、山形県(6.34)、石川県(6.24)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は大分県(12.11)、宮城県(11.88)、福井県(11.64)である。水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(1.44)、富山県(1.17)、宮城県(1.12)である。手足口病の定点当たり報告数は2週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は佐賀県(1.35)、沖縄県(1.32)、山形県(1.21)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は第5週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は石川県(0.97)、宮城県(0.81)、東京都(0.67)、神奈川県(0.67)である。百日咳の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.06)、鳥取県(0.05)、東京都(0.03)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は石川県(1.00)、香川県(0.80)、福島県(0.71)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は3週連続で増加した。37都府県から147例報告があり、年齢別では0歳(21例)、1～4歳(103例)、5～9歳(15例)、10代(3例)、20代(2例)、40代(1例)、60代(1例)、70歳以上(1例)であった。

<関東情報>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、千葉県(3.50)、埼玉県(3.48)、群馬県(3.27)、茨城県(3.21)からの報告が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



平成27年 08週

	全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	40,817	659	732	803	1,567	2,049	2,213	2,204
	定点当たり	8.26	5.49	9.63	8.19	6.32	9.62	5.33	6.66
RSウイルス感染症	報告数	1,420	10	8	20	42	23	81	51
	定点当たり	0.45	0.13	0.17	0.33	0.27	0.17	0.31	0.25
咽頭結膜熱	報告数	980	20	9	17	47	31	48	31
	定点当たり	0.31	0.27	0.19	0.28	0.30	0.23	0.18	0.15
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	9,063	2,809	241	82	196	547	465	702
	定点当たり	2.88	2.98	3.21	1.71	3.27	3.48	3.50	2.69
感染性胃腸炎	報告数	23,744	7,435	559	230	364	1,398	1,030	2,196
	定点当たり	7.54	7.89	7.45	4.79	6.07	8.90	7.74	8.41
水痘	報告数	1,586	477	24	13	13	138	54	122
	定点当たり	0.50	0.51	0.32	0.27	0.22	0.88	0.41	0.47
手足口病	報告数	953	132	16	9	31	11	12	23
	定点当たり	0.30	0.14	0.21	0.19	0.52	0.07	0.09	0.14
伝染性紅斑	報告数	952	481	19	7	11	66	65	174
	定点当たり	0.30	0.51	0.25	0.15	0.18	0.42	0.49	0.67
突発性発しん	報告数	1,345	420	23	28	27	76	51	118
	定点当たり	0.43	0.45	0.31	0.58	0.45	0.48	0.38	0.45
百日咳	報告数	29	15	1	1	-	1	2	8
	定点当たり	0.01	0.02	0.01	0.02	-	0.01	0.02	0.03
ヘルパンギーナ	報告数	58	7	-	-	2	-	1	3
	定点当たり	0.02	0.01	-	-	0.03	-	0.01	0.01
流行性耳下腺炎	報告数	958	242	12	8	20	78	33	67
	定点当たり	0.30	0.26	0.16	0.17	0.33	0.50	0.25	0.26
急性出血性結膜炎	報告数	7	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.01	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数	277	108	11	3	11	17	21	7
	定点当たり	0.40	0.53	0.65	0.25	0.79	0.41	0.64	0.18
細菌性髄膜炎 #2	報告数	8	2	-	-	-	1	-	1
	定点当たり	0.02	0.02	-	-	-	0.10	-	0.04
無菌性髄膜炎	報告数	11	1	-	-	-	-	-	1
	定点当たり	0.02	-	-	-	-	-	-	0.04
マイコプラズマ肺炎	報告数	94	17	3	-	2	4	2	6
	定点当たり	0.20	0.21	0.23	-	0.25	0.40	0.22	0.24
クラミジア肺炎 #3	報告数	5	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.01	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	147	29	4	3	3	7	2	3
	定点当たり	0.31	0.36	0.31	0.43	0.38	0.70	0.22	0.12

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)

この情報は感染症法に基づく、感染症発生動向調査により、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターの持つ病原体検査情報をまとめたものです。

今月のコメント

デング熱と診断された患者2例から、デングウイルスが検出されました。2例ともインドネシアへの渡航歴が確認されています。

四類感染症 ウイルス分離状況 平成27年3月5日現在

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体数合計			
		1月	2月	3月	累計
E型肝炎	検体数		3		3
	E型肝炎 検査中				
A型肝炎	検体数		1		1
	A型肝炎 検査中		1		1
重症急性 呼吸器症候群	検体数				
	SFTS 検査中				
デング熱	検体数		2		2
	デングウイルス 検査中		2		2

五類感染症につき 平成27年3月5日現在

臨床診断名	検出月	検出月			
		1月	2月	3月	累計
麻しん	検体数	6	3		9
	麻しん 検査中	3	3		6
風しん	検体数	1			1
	風しん EB 検査中	1			1
先天性風しん 症候群	検体数				
	風しん 検査中				
無菌性髄膜炎	検体数				
	検査中				
流行性 角結膜炎	検体数				
	アデノ 検査中				
流行性 耳下腺炎	検体数	1			1
	ムンプス 検査中				
その他	検体数	51	56		107
	コクサッキー A9	2			2
	パレコ	1			1
	アデノ 1	1			1
	アデノ 2	3			3
	単純ヘルペス1	1			1
	ヒトヘルペス 6	3			3
	ヒトヘルペス 7	3	1		4
	インフルエンザAH3	2	1		3
	RS	6	1		7
	ヒトメタニューモ	1	1		2
	ライノ	5	1		6
	サイトメガロ	2			2
	ノロ	1			1
	検査中		52		52

五類感染症 平成27年3月5日現在

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体数合計			
		1月	2月	3月	累計
咽頭結膜熱	検体数	109	87		196
	アデノ 検査中				
インフルエンザ	検体数	39	16		55
	インフルエンザAH3	31	10		41
	" B	5	5		10
	" AH1pdm09				
感染性胃腸炎	アデノ 3	1			1
	検体数	2	1		3
	検体数	4	8		12
	ロタ(A)				
ヘルパンギーナ	検体数				
	コクサッキー A2				
	" A6				
	" A8				
脳炎・脳症 (四類以外)	" A10				
	検体数	7	4		11
	ヒトヘルペス 6	1			1
	検査中	4	4		8

細菌分離状況 平成27年3月5日現在

病原体名	分離月	分離月			備考(2月分)
		1月	2月	3月	
三類	赤痢菌				ミヤコ-
	チフス菌				
	パラチフスA菌		1		
	腸管出血性大腸菌O157	3			
四類	腸管出血性大腸菌O26	1	1		H11(VT1):1
	腸管出血性大腸菌その他	1			
	レジオネラ菌	1	1		Legionella pneumophila (SG1):1
五類	MRSA		1		S. pyogenes T1(劇症型):1
	溶血性レンサ球菌	1	1		
	その他		4		

梅毒

梅毒は、感染症法の五類全数把握対象疾患で、*Treponema pallidum* を原因とする性感染症です。感染すると潜伏期を経て、初期硬結・梅毒性乾癬・梅毒性バラ疹等の多彩な症状を呈す一方で、全く症状を示さない無症候梅毒(無症状病原体保有者)があり、これを発見するには血清抗体検査が必要です。

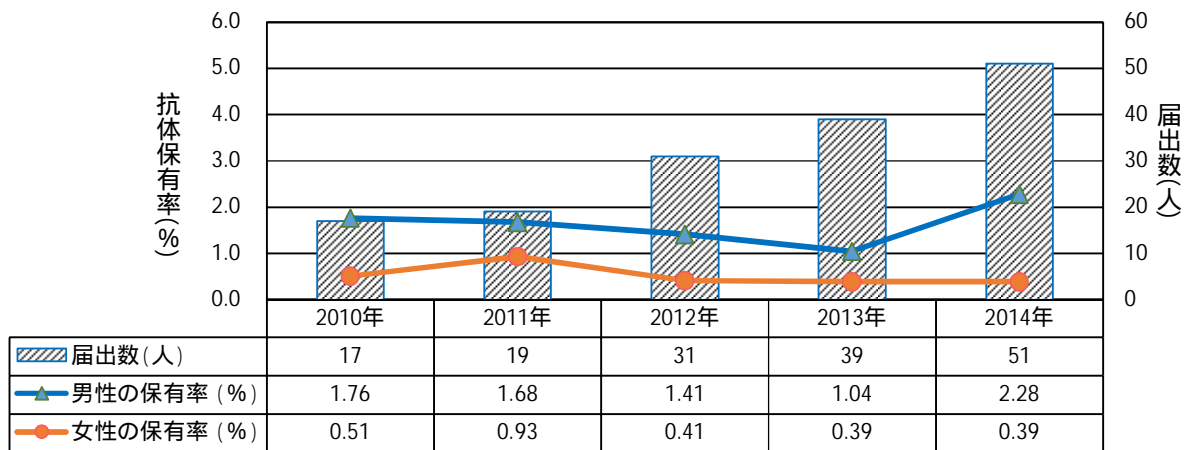
衛生研究所では、「HIV 抗体検査及びその他の性感染症等検査」の一環として梅毒血清抗体検査を実施しています。図1は、埼玉県の梅毒届出数を棒グラフで、衛生研究所で実施した検査の結果を性別に折れ線グラフで示したものです。

2010年～2014年の5年間に6,585人が受検して79人が陽性であり、うち14人の脂質抗体は届出基準の16倍以上でした。抗体陽性者の問診票には、いずれも症状の記載は無く、そのうち18人は梅毒治療経験がありました。

抗体保有率を性別でみると、男性が女性より高く、2014年には前年の約2倍に増加しています。

さらに、届出数は近年増加傾向が続いており、2014年の届出数は2010年の3倍に達しました。

図1 埼玉県の梅毒届出数及び抗体保有率の推移



梅毒の届出には、RPR カードテストなどのカルジオリピンを抗原とした検査と TPHA 法など *T.pallidum* を抗原とした検査の両方に該当することが基準となっています。さらに陳旧性梅毒を届出対象から除外するために、無症候病原体保有者は、カルジオリピンを抗原とした検査で抗体価 16 倍以上又はそれに相当する抗体価の確認が必要です。

ホーム > 県政情報・統計 > 県概要 > 組織案内 > 保健医療部 > 保健医療部の地域機関 > 衛生研究所 > 感染症情報センター > 感染症の流行情報 > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2015年 > 感染症の流行状況 2015年 第10週

感染症発生動向調査 2015年

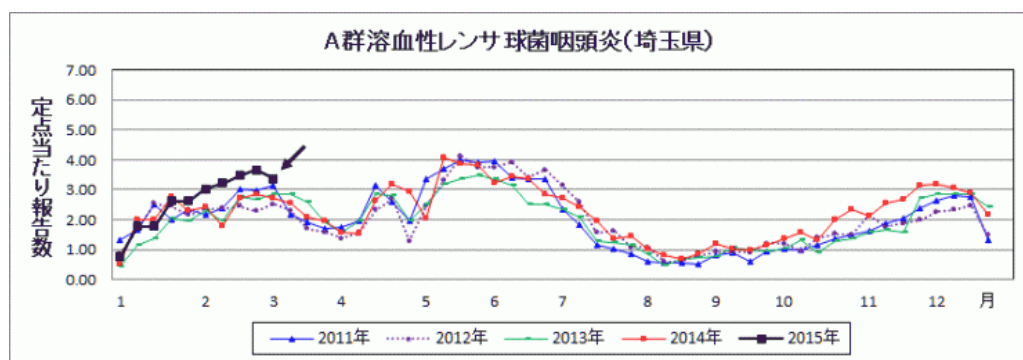
- [感染症の流行状況 2015年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第9週](#)

感染症の流行状況 2015年 第10週

2015年第10週（平成27年3月2日～3月8日）の要点 平成27年3月11日

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、前週より減少しましたが、依然多い状況が続いています。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ			伝染性紅斑		
RSウイルス感染症			突発性発しん		
咽頭結膜熱			百日咳		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			ヘルパンギーナ		
感染性胃腸炎			流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		
水痘（みずぼうそう）			急性出血性結膜炎		
手足口病			流行性角結膜炎		

*1. 推移、流行状況は、県内全域の傾向です。 *2. 推移は2週間前からの傾向を示します。（○：増減無し、▲：増加、▼：減少） *3. 流行状況は今週の流行を示します。（小さい、大きい）

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン

お問い合わせ

[保健医療部 衛生研究所](#) 感染症疫学情報担当

郵便番号355-0133 埼玉県比企郡吉見町江和井410番地1 埼玉県衛生研究所

電話：0493-59-9325

ファックス：0493-59-9613

▶ お問い合わせフォーム